

日本歯科東洋医学会 関東甲信越支部通信

第 2 号

支部長 松本英彦

関東甲信越支部では昨年の 4 月から研修会をおこなっています。何度かご案内をしているように今年度の研修会は、



- 1) 一人の講師の講義ではなく、(もちろん概説はあります) 参加した先生方のスキルアップや今まで敷居の高かった実践への導入を容易にすることを目的にしていますから、自分の診療室に帰ったらすぐに導入できること、そして実際に行ってみたときの疑問を遠慮なく聞いて解決できることができます。ですから今まで全く経験のない先生でも安心して参加できます。
- 2) せっかく各グループで行った研修内容ですから本会の学術大会で発表してもらうことも目標にしています。一人ではなかなかできない学会発表もグループで協力しながらならできるよう。そして是非認定医を取得してください。(学会発表は認定医取得の条件になっています)

もちろん途中からの参加大歓迎です。今までの研修会では和気あいあいと皆で楽しくやっていますので遠慮することなしに気楽に参加してください。

《1》各グループ長からの報告

①鍼灸グループ 中村泰規

・第 1 回報告 (11 月 26 日開催分)

歯科臨床の中で疼痛に対するコントロールを鍼灸で行う事を検討していく。

当グループの構成員は、東洋医学の初学者の方から鍼灸師の資格を所持する方など様々である。また東洋医学の鍼灸というと経絡やら経穴といった複雑な概念や、どのように鍼をすればいいのかという事が、臨床導入する際の一番の壁になっていると思われる。

そこで、誰もが臨床導入しやすい円皮鍼というものに注目した。円皮鍼は皮膚接触鍼であり、特に難しい術式は要しない。接触鍼は交感神経を抑制する効果があるといわれている。疼痛発生時には交感神経優位の状態になっているが、交感神経抑制により疼痛緩和されると考えられる。

今回、我々はデータを収集し実際に接触鍼の効果を検証していこうと思う。そのために、症例選択、円皮鍼を貼る位置・期間、円皮鍼の種類、疼痛の客観的評価について検討していく。

そしてその過程、結果を本学術大会において発表する予定である。鍼灸のエビデンス解明まで発展できれば本望であるが、最初から目標を高いところに設定すると継続が困難になったり、方法論が複雑で挫折する可能性も考えられ、今後のステップアップを踏まえて最も基本的なところから検証していこうと思う。既に円皮鍼についての効果は本学会のみならず全日本鍼灸学会等で



も発表されているが、改めて検証することで歯科領域での応用をさらに裏付けるものとなり得る。そのような一つ一つの積み重ねが鍼灸をはじめとする東洋医学の立場をさらに押し上げるものとする。またそういう検証の蓄積を本学会から発信することで歯科界での応用基準なるものを確立して行けるのではないかと。

・第2回報告（1月21日開催分）

手の陽明大腸経は「歯脈」ともいわれ、口腔や顔面との関わりが深い経絡とされている。その経絡上の合谷穴は比較的多くの方に馴染みのある経穴である。今まで合谷穴と歯痛の関係、円皮鍼の効果についての文献や発表は本学会のみならず、他の学会でも数多くみられる。しかし、今一度円皮鍼の効果について合谷穴を用い再検証するため症例を収集していく。

〔使用する円皮鍼〕 セイリン株式会社製 PYONEX（パイオネックス）0.6mm（黄）

〔症例及び方法〕 処置前から疼痛を伴うものあるいは処置後疼痛が出現しそうなもので、鎮痛消炎剤を投与すべきと担当医が判断した症例において、処置後（場合によっては処置前）より両側手の陽明大腸経合谷穴 LI4 に皮膚消毒後円皮鍼を貼付する。入浴時は円皮鍼を外してもらい、入浴後エスクリンで皮膚消毒後再度新しい PYONEX を患者自身で貼付してもらう。この時貼付場所を一定にするため、最初に円皮鍼を貼付する際に担当医は油性マジックにおいて合谷穴に印をつける。最初に貼付してから24時間後に円皮鍼を外してもらう。

〔評価方法〕 10cmのVAS（visual analog scale）を用いる。24時間中で最も疼痛が強かった時を、記憶の中で最初にプロットしてもらう。そして、24時間後円皮鍼を外す際の状態をプロットしてもらう。

協力してもらう被験者の方には、担当医が説明を行い了解を得た後、同意書（雛型を作成する予定）に記入してもらい、「痛みを和らげるキット」（仮称）を手渡す。

※キット内容：①セイリン株式会社製 PYONEX（パイオネックス）0.6mm（黄）6個

②セイリン株式会社製 外皮消毒剤エスクリン ONE 2個

③説明書（今回の検証目的を記した用紙（雛型を作成する予定）、セイリン株式会社作成の「使用方法」のリーフレット、合谷穴のわかりやすい図）

④VAS用紙 3枚（1枚目 24時間の中で最も疼痛がひどかった時のVASを記入。2枚目 24時間後円皮鍼を外す直前のVASを記入。3枚目予備）

⑤鎮痛消炎剤服用の有無についての回答用紙

※①②はセイリン株式会社様のご厚意により提供して頂く

以上、症例を集積し回収したVAS用紙、鎮痛消炎剤についての回答用紙をどのように纏め上げるかを今後検討し、今年の本学会学術大会において経過報告を行っていく予定。

次回開催は3月18日（金）19：00～ 場所は未定。キットを作成して行く予定。

ご協力頂ける先生は奮ってご参加下さい。

②漢方グループ 棕梨兼彰

・第1回報告（12月21日開催分）

12月21日（火）（株）ヨシダ本社会議室で漢方グループの1回目の勉強会を行いました。

まずは自己紹介から始まり、実際に臨床で何処まで応用しているかなどを確認して今後どのように臨床に漢方薬を導入するのか検討しました。

- 1) 保険で処方できる漢方薬の確認
- 2) 漢方薬の購入の仕方
- 3) 自費診療ではどのように処方するのか
- 4) まずどのような症例に処方してみるのか

とにかく、まず初めに保険適応（口内炎・歯痛など）の症例に処方することを目標にして少しずつ漢方薬に慣れて症例を増やしてい



く事にしました。

次回の勉強会までに処方した症例を各自持ち寄ってディスカッションを進めていき、目標は学会発表までできるようになればと話し合いをしました。

次回の勉強会は2月20日(日)、同じく(株)ヨシダ本社会議室(上野)で行います

③食養グループ 成田 優

・第1回報告(1月22日開催分)

1/22(土)、台東区上野区民館にあて食養グループ1回目を行いました。添付した資料に沿って東洋圏の伝統食を考え、参加者とともにその場でキーワードとなる事を調べ、知識を深め合いました。また、私が今回の食養をまとめるにあたっての書籍なども紹介させていただきました。

食養は、鍼灸や漢方などのように、直ちに症状に変化が見られない事を踏まえて次の事を参加者で実践してみる。

①米食(なるべく玄米)発酵食品(みそ、漬物)を自ら食し、その味覚を確認し、体調の変化を観察する。

②家族やスタッフなどにも同様に食しても体調の変化を観察する。

学会発表を目標に少しずつデータを集め、分析していく事を話し合いました。

食養2回目は、1回目で予定しておりました「人間の出生～捕食」のテーマも含めて3/26(土)、午後6時より台東区上野区民館で予定しております。参加を随時受け付けておりますので、是非参加してください。



④気功グループ 松本英彦

・第1回報告(12月15日開催分)

2010年12月15日 第1回の勉強会を開きました。前昭和大学講師の筒井重行先生をアドバイザーに招き、臨床でどのように気功を使っていくか参加者で意見交換をしました。

今回はあまり日常臨床では使っていない先生がほとんどでしたので初めての気功という観点から次のことを宿題として実行していくことにしました。

- 1) 治療の前に患者さんの頭側に立ち、指で百会を探る(探り方をみんなで練習しました)
- 2) 手の指を百会に当てたとき自分も患者さんも得気感を感じ、その後患者さんにどのような変化が起こるのか?

以上を次回2月16日(水)に持ち寄ってディスカッションをしたいと思います。まだ参加されていない先生方気楽に参加してください。



⑤代替医療グループ 石田 治

・第2回報告(1月19日開催分)

今回は、全身の中の口腔についての考え方を一緒に学んでいきたいと思います。

我々歯科医は大学でもあまりこの事について学んできていないのではないのでしょうか。

我々が在学していた時代はせいぜい口腔一単位という事でパノラマフィルムを診て診断治療に結びつけていこうという位であったと思います。歯の噛み合わせで肩こり、頭痛等の症状が起こる、など如何にも全身と口腔との関係が解かり口腔からのアプローチが大切



である事が解かって来た様に思われるが、口腔が全身の中で独立した存在ではなく、お互いに機能しあって、様々な動作、働きをするという事がまだ本当には理解されていない様に思います。口腔はあくまで全身の一部であり、他の部位の機能、バランス等に大きく影響を受けているという事を、今回池上六朗先生が創案された三軸修正法という考えを皆様に紹介し体験して頂き、その概念を今後の診療に役立てて頂きたいと思えます。

《2》 広報から

支部通信第2号をお届けいたします。

学会本部の郵送による通信が途絶えて久しいですが、関東甲信越支部では、電子メールの対応が困難な先生方に郵送で支部や学会の動向をお知らせしていこうと考えています。

郵送費などの経費の問題から、電子メールのご登録のある方は、メールでのみ配信させていただきますが、ご登録のない方（支部会員の約半数）は今回郵送にてお送りいたしております。

広報からのお願いです・・・

- 1) メールアドレスのご登録のない方（この支部通信第2号が郵送の方）は、メールアドレスの登録だけでもお願いいたします。（以下別紙をお使いください）
- 2) 印刷、郵送の経費もさることながら、支部運営のために、支部会費のご協力をお願いいたします。（支部会費年間2000円）

郵便振替口座番号 00160-9-623074

口座名称 日本歯科東洋医学会関東甲信越支部

- 3) 本会のHPを利用し、頻繁に情報を発信するよう努めますが、皆様からのご意見、ご要望もぜひお知らせください。

ご連絡は本支部専務の森純信までお願いいたします。

TEL&FAX : 04-2965-5211

Mail : morisumi@nifty.com

以下は、参加希望申込みとしてお使いください。

各グループの開催予定日は以下のとおりです。参加されたいグループの〔 〕に○を記入してください。お名前とメールアドレスをご記入の上、この用紙をそのままFAXで専務森までお送りいただければ幸いです。

TEL&FAX : 04-2965-5211

Mail : morisumi@nifty.com

《会場》 ヨシダ・・・(株)ヨシダ本社会議室 (台東区上野7-6-9 TEL:03-3845-2911)
東上野・・・台東区東上野区民館 (台東区東上野3-24-6 TEL:03-5807-1520)

漢方グループ・・・①~~12月21日(火) 18:30～ヨシダ~~ [終了]
② 2月20日(日) 13:00～ ヨシダ []

鍼灸グループ・・・①~~11月26日(金) 19:00～ヨシダ~~ [終了]
②~~1月21日(金) 19:00～東上野~~ [終了]
③ 3月18日(金) 19:00～ 東上野 []

気功グループ・・・①~~12月15日(水) 19:00～ヨシダ~~ [終了]
② 2月16日(水) 19:00～ ヨシダ []
③ 4月13日(水) 19:00～ 東上野 []

食養グループ・・・①~~1月22日(土) 18:00～東上野~~ [終了]
② 3月26日(土) 18:00～ 東上野 []

代替医療グループ・・・①~~11月24日(水) 19:00～ヨシダ~~ [終了]
②~~1月19日(水) 19:00～ヨシダ~~ [終了]
③ 3月16日(水) 19:00～ 東上野 []

東洋医学グループ・・・①~~1月22日(土) 食養終了後 東上野~~ [終了]
② 2月20日(日) 漢方終了後 ヨシダ []

お名前 : _____

メールアドレス : _____ @ _____

ご要望、ご質問などお書きください :